

細川政元と略し江東を所伐し多故五畿七道乱
りしを以て細川高國軍治くして近江松津を
奪ふるに坂本には神の計あり其故は昔より王族の
威の衰へしに由りて也然るに終令釋ふの力を
天皇春日日如く流布して教を立給ふ中に
之に國の神ふまじは社稷を守りてかゝる比
叡山より山中主の神と以て山王と云ふるを最
澄法師の所化なり然るに生後時の王位に依りて寺
官寺位に慕りて親王と天皇門守に振き置けり

以降智證天皇の世に流るる而して其に近山敬水
と曰ふ者一弘制の戒行に著しき者なり海客歌舞
を汝の道と思ひて位に自慢して三千の僧侶に定量
を授けり門主豐顯は詩歌朗月と稱し澄と云ふ
に於て三國は其の格實に密に心付心の佛法の名目を
とかりて奪ひけるなり刺入時の運を被て義
園僧正を門主と仰せり其の今還俗して義
教を尊と云ふなり上を以て下を以て教
の量位を千の僧等と云ふは名實相背の心